

●三位一体後第一主日

泉のほとり

今月の詩編「第十二編」

人は友に向かつて偽りを言い

滑らかな唇、二心をもって話します。

主よ、すべて滅ぼしてください

滑らかな唇と威張って語る舌を。



隣人の家を欲してはならない

「隣人の家を欲してはならない」という、十戒の最後に位置付けられる第十の戒めは、第一の戒めが最も重要である。人は思うことから、他の戒めよりも重要度が低いものと思われている傾向があると思います。人殺しや盗み、偽証には各国の法律で罰則が明示されているのに、対し、人の内側にある「欲する心」、その程度で罰することは、律法が定める一人以上の証人を立てようがなく、立証することも不可能でしょう。それゆえに自ら表さなければ容易に隠し通せ、破ったことにはならないということにできるのです。しかし、神がこの戒めを制定されたという事実は、私たちに人の前では立証しようがないものであっても、神の前では違う。「神に隠れているものは何一つない」という非常に重要な事実を教えているのです。

この戒めを守り行うためには、人は必然的に自分自身の内側を見なければなりません。「隣人の妻、男女の奴隷、牛、ろばなど」を欲することがあつたら、そのような心があるかないかと自分自身の内側を精査し、神の前にそれをあらわにすることが必然なこととなります。

「欲する」という言葉は創世記3章で女が禁断の実を「欲しい」と見た時にも使われています。その時、女の心には神を見ることも神の命令も見えなくなり、またダビデ王が部下ウリヤの妻との姦淫、妊娠を隠すためにウリヤを激戦地に送って死なせました。自分が神の前にいる事実が欲する心に覆われて全く見え、また欲する心はすべての戒めから人を逸脱させるようにしました。欲する心はこのように神も神の命令も神への恐れも見えなくするゆえに、使徒パウロは「貪りは偶像礼拝」と証言していたと思います。

この戒めはすべての戒めを破る根つ子を示しています。他方、それを取り除き、人を他のすべての戒めにおいても非の打ち所がないものとする戒めでもあります。

ところが、人は「隣人の家を欲してはならない」という戒めを最も頻繁に犯してきているのではないのでしょうか。常に隣人の家を見て比較し、他人の持つ地位や立場、特権、賜物を妬む。妬みは高ぶりの裏表であり、他の人より偉くなりたいたい心も欲する心からのものです。旧約聖書のコヘレトが「あらゆる労苦とあらゆる仕事の成功は人間同士の間たみに過ぎない」と表すほど、世のすべてがこの欲する心で常に動いています。飽くことなく常にこの世にあって、人はそれがもたらす不幸も不幸と感じなくなっているのではないかと思います。

「隣人の家を欲してはならない」とは、言い換えれば「満ち足りることを知る」ことです。今あなたに与えられている恵みが「十分」であると知ることです。「わたしは主、あなたの神」と言われる天の父が、「欲してはならない」と語られているこの戒めには、「わたしがいるではないか」と大きく鳴り響いているのではないと思います。私のために死んでくださった御子がおられ、御子を与えられた神が私の父であられる。世界のすべてを手にすることが、この幸いに及ぶものでしょうか。隣人の家を欲することは神の家の者には相応しくありません。むしろ世にある人たちが神の家の幸いを見て、自分の造り主へと立ち返つてくることが、それがふさわしいことです。

「隣人の家を欲してはならない」、この戒めを守り行うために人は自分が抱いている具体的な欲望まで、すべてを神に表すことが必然です。その必然を通して、元々人の内側まで透明に神とすべてを交わされる関係であったことにも気づかせていると思います。人には絶対言えない、神の前で表すことも躊躇してしまう「欲する心」まですべてを表して近づいてくる人は、既に欲する心より神を第一にしています。そこから始まる神との豊かな交わりに生きるために、私たちのすべての内側をさらけ出して、我が神に進もうではありませんか。この第十の戒めを真つ直ぐに受け止め、一人一人、神の家のものの幸いを生き、この世にその幸いを示すものとなることが願われているのです。

《私たちのビジョン》

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《2026年度

教会全体課題》

神さまによって

示された新しい歩みの中で、

キリストの体としての一致を

祈り求める

ーコミュニケーション、交わり、

伝道、学びなどを通してー

《今日のお知らせ》

○ 二時一五分から教員懇談会を開催します。

軽食を済ませて地下ホールにお集まりください。既に配布されている「月報四」と

「月報五」をお持ちください。なお「信仰者に学ぶ会」は次週開催されます。

○ 運営委員会、各小委員会がそれぞれ行われます。

○ 二二日（金）一〇時から礼拝堂で附属幼稚園のおゆうぎ会が行われます。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。
〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

〔詩篇十二篇〕 指揮者によつて。第八調。
賛歌。ダビデの詩。

主よ、お救いください。

主の慈しみに生きる人は絶え

人の子らの中から

信仰のある人は消え去りました。

人は友に向かつて偽りを言い

滑らかな唇、二心をもつて話します。

主よ、すべて滅ぼしてください

滑らかな唇と威張つて語る舌を。

彼らは言います。

「舌によつて力を振るおう。自分の唇は自分のためだ。

わたしたちに主人などはない。」

主は言われます。

「虚げに苦しむ者と

申している貧しい者のために

今、わたしは立ち上がり

彼らがあえぎ望む救いを与えよう。」

主の仰せは清い。

土の炉で七たび練り清めた銀。

主よ、あなたはその仰せを守り

この代からとこしえに至るまで

わたしたちを見守ってくださいます。

〔司・会〕

主に逆らう者は勝手にふるまいます。

人の子らの中に

卑しむべきことがもてはやされるこのとき。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「新しい時代の始まり」

聖書 マタイ3章13〜17節

説教者 吉村和雄名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「主を拝み、主に仕える」

聖書 マタイ4章8〜11節

説教者 宮間彰広 兄

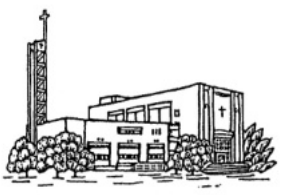
●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)

讃美歌 499番 168番

説教 「祈りは主イエスと共に」

聖書 ルカ11章1〜4節

説教者 吉村和雄名誉牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 67番 515番
説教 「あなたが罪に陥らないように」
聖書 出エジプト20章18～21節(旧約P.127)
司式 石川一兄
聖餐司式 黄允湜 牧師
説教者 黄允湜 牧師

前奏曲「神は全てを善くなし給うた」
(カンタータ35番より) J.S.バッハ

○讃美歌67番

1. よろずのもの とわにしらす み父よ
いまめぐみを くださったまえ
み名をほむる われらに
2. ひととなりし すくいのみ子 主イエスよ
利きつるぎのみことばもて
しめたまえ まことを
3. いともつよき なぐさめぬし みたまよ
わがころをおさめたまえ
今よりのち はなれで
4. 三にまして ひとりにます みかみよ
み名のさかえ ほめたたえて
とこしなえにしたがわん アーメン

○聖歌隊による讃美

「全能なる永遠の主よ」 O.ギボンズ作曲
全能なる永遠(とわ)の主よ
われらの弱きを顧み
危うきと災いより
み手をもて救い給え
み名によりて アーメン

○讃美歌515番

1. 「十字架の血に きよめぬれば
来よ」との御声を われはきけり ※
(※くりかえし)
主よ われは いまぞゆく
十字架の血にて きよめたまえ
2. よわきわれも みちからをえ
この身の汚れを みな拭われん ※
3. まごころもて せつにいのる
心にみつるは 主のみめぐみ ※
4. ほむべきかな わが主のあい
ああほむべきかな わが主のあい ※
アーメン

聖餐曲「アダージョ」 C.M.ガドール

後奏曲「父、み子、みたまのひとりのみ神よ」 D.R.ジョンソン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。